

TYPICA Holdings株式会社



企業HP : <https://typica.jp>

- 所在地：大阪府大阪市中央区南船場4丁目12番8号関西心斎橋ビル8階
- 従業員：1人(100%子会社である各国事業会社に約50名)
- 会社設立年（西暦）：2020年8月19日
- 事業内容：コーヒー生豆のオンラインマーケット事業

事業名

・新興国におけるコーヒー豆のDX流通を推進するための生産用先払金提供の実証・FS調査(中南米)

新興国企業等との協力・連携

- ・共創する企業名：CaféNor（エルサルバドル）、Woolis（メキシコ）、Nayra Qata（ボリビア）、UEB Agroforestal（キューバ）
- ・業種：農業（コーヒー豆生産・加工・買付）
- ・共創内容：コーヒー豆生産支援と弊社プラットフォームを活用したDX流通

現地の経済・社会課題

- ・生産産者の約7割が新興国の小規模生産者、うち約4割が貧困状態
- ・中には高いポテンシャルを有しているにも関わらず、財務制約を理由に設備投資ができず加工前のコーヒー豆を安価で仲介業者に販売せざるを得ず、国際価格を大幅に下回る収益しか獲得できていない

実証手法とその内容

- ・中南米の小規模生産者に対して、コーヒー豆生産開始前に先払金として運転資金/設備投資費用を提供。生産したコーヒー豆を弊社の流通プラットフォーム上でロースターに販売し、そこからの収益で生産者は当初の先払金を返還していく
- ・現地共創企業と個別生産者にヒアリングを実施し、事業環境を含めたFS調査も実施（エルサルバドル、メキシコ、キューバ）

期待される裨益効果

- ・生産拡大、販売・輸出機会増加に伴う農家の所得水準向上
- ・先払金提供の対象とならない同業者は、コーヒー豆の品質を向上させることで自身も同じく所得拡大の機会を得られる可能性があるため、品質向上と生産拡大のインセンティブが働く
- ・マクロの観点から、コーヒー豆業界の雇用の拡大、並びに農家の貧困率削減が期待でき、Inclusive Growthに貢献

